

- 問1 標高が高く、夏でもすずしい気候を利用して、キャベツやレタスを育てる農業を何といいますか。
- 問2 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。
- 問3 漁業資源を守るために、国や自治体が行っている「とれる魚の量や期間を制限する」取り組みのことを何といいますか。
- 問4 漁港の近くに「加工工場」があることで、どのような良さがありますか。
- 問5 大陸だなの近くでは、なぜよい漁場ができるのですか。
- 問6 暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多く、よい漁場となっている浅い海底のことを何といいますか。
- 問7 暖流と寒流がぶつかり、よい漁場となっているところを何といいますか。
- 問8 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何といいますか。
- 問9 漁港の近くに建てられている、水揚げされた魚を競りにかけるための施設を何といいますか。
- 問10 魚市場で行われる「せり」には、どのような役割がありますか。
- 問11 大都市の近くで、消費者の好みに合わせて新鮮な野菜をたくさん作り、トラックを使って素早く届ける農業を何といいますか。
- 問12 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。
- 問13 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何といいますか。
- 問14 農家が「産地直送」でお客さんに商品を届けることで、どのような良いことがありますか。
- 問15 その土地の気候や風土に合わせて、より育てやすくおいしい農作物の種類を新しく作り出すことを何と言いますか。
- 問16 「産地直送（ちさんちしょう）」とは、どのようなことですか。
- 問17 長野県や群馬県などの涼しい地域で、夏の涼しい気候をいかしてキャベツやレタスを育てる主な目的は何ですか。
- 問18 林業で、木が十分に育ったあとに、それらを切り出して木材にする作業を何といいますか。
- 問19 ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、ふつうよりも早い時期に野菜をつくり出荷する栽培方法を何といいますか。

## 答え合わせ・解説 No.2

問1	<b>答え</b> 高冷地農業	標高が高い場所にある高原などは、夏でも気温が低くすずしいため、暑さを苦手とする野菜を育てるのに適しています。このような気候の特徴を活かした農業を高冷地農業と呼びます。
問2	<b>答え</b> 将来にわたって魚をとり続けるため	一度にたくさんの魚をとってしまうと、魚が十分に育ったり増えたりする前にいなくなってしまう。将来もずっと安定して魚をとれるように、今とる量を調整して、海にいる魚の数を守ることがこの取り組みの大切な理由です。
問3	<b>答え</b> 漁獲規制	将来もずっと魚をとることができるように、とりすぎを防ぐためのルールを設けることを漁獲規制といいます。単に魚をとることを禁止するのではなく、量や期間を計画的に管理することで、魚の数が増えるのを助けながら、安定した漁業ができるようにしています。
問4	<b>答え</b> 獲った魚を新鮮なうちに加工して、製品として売ることができる	獲った魚をすぐに加工することで、保存がきくようにしたり、料理しやすくしたりできます。このように工夫することで、魚の価値を高め、おいしい状態で全国に届けることができます。
問5	<b>答え</b> 暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多いため。	大陸だなは浅い海底で、暖流や寒流が近くを流れることで海そうやプランクトンが多くなり、魚が集まるよい漁場になります。
問6	<b>答え</b> 大陸だな	暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多くてよい漁場となっている浅い海底を「大陸だな」といいます。
問7	<b>答え</b> 潮目	あたたかい海流（暖流）と冷たい海流（寒流）がぶつかり、よい漁場となっている場所を「潮目」といいます。
問8	<b>答え</b> 栽培漁業	栽培漁業は、稚魚を放流して自然の海や川で育てる手法です。これに対して「養殖漁業」は、いけすなどの施設の中でえさを与え、完全に人の手で管理して育てるといった違いがあります。
問9	<b>答え</b> 魚市場	獲れたばかりの魚が集められ、値段を決める「競り（せり）」が行われる場所のことです。ここで決まった魚が、日本各地のスーパーやお店へ運ばれていきます。
問10	<b>答え</b> 買い手と値段を決めること	せりは、漁業者が持ってきた魚に対して、買い手が希望する値段を出し合い、最終的に誰がいくらで買うかを決める仕組みです。この仕組みがあるおかげで、魚の値段が公正に決まり、スムーズに各地へ運ばれていくことができます。
問11	<b>答え</b> 近郊農業	大都市の近くで行われるこの農業は、消費者に新鮮な野菜を届けることが大切です。そのため、トラック輸送などを利用して、大都市の人々が求める野菜を計画的に出荷する工夫がされています。
問12	<b>答え</b> 排他的経済水域の取り決めなどができたため。	遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めなどができたことにより、遠くの海で自由に漁ができなくなったため、1970年代から生産量が大きく減り続けています。
問13	<b>答え</b> 農業協同組合	農業協同組合（JA）は、農家同士が協力して農業経営を良くしていくための組織です。共同で肥料などの材料を買ったり、育てた作物を販売したりすることで、個人の農家だけでは難しい活動を支え、地域の農業全体を発展させる役割を担っています。
問14	<b>答え</b> 中間にかかる費用をへらして新鮮なものを届けられる	産地直送の大きな特徴は、市場や卸売業者という「中間」のステップを省くことです。これにより、輸送にかかる日数が短くなって新鮮なものが届くだけでなく、中間でかかる余計なコストを抑え、農家にも消費者にも適正な価格で取引ができるようになります。
問15	<b>答え</b> 品種改良	品種改良とは、より病気に強く、味や見た目が優れた農作物を生み出す技術のことです。農業試験場では、地域ごとの気温や土壌の特徴に合わせて、この品種改良がさかんに行われています。
問16	<b>答え</b> 地元でとれた農産物を、その地域で消費すること	地産地消は、自分たちが住んでいる地域でとれた食べ物を、その地域の中で食べることを指します。輸送する距離が短くなるため、新鮮なものを食べられるだけでなく、運ぶときのエネルギーを減らせるという環境にやさしいメリットもあります。
問17	<b>答え</b> 本来の旬とはちがう時期に出荷して一年中食べられるようにするため	夏の涼しい気候を利用して、ふつうの地域では野菜が育ちにくい時期に栽培することを「抑制栽培（よくせいさいばい）」といいます。これにより、本来の旬とはちがう夏の間にも、新鮮なキャベツやレタスを消費者に届けることができます。
問18	<b>答え</b> 伐採	長い年月をかけて育てた木を、木材として利用するために切る作業のことを伐採といいます。植林は苗木を植えること、枝打ちは節のないきれいな木にするために枝を切り落とすこと、間伐は成長を助けるために木を間引くことを指します。

---

**問19 答え**  
促成栽培

あたたかい気候やビニールハウスを利用して、野菜を早い時期に育てて出荷する方法を促成栽培といいます。

---